

急きょマスクの製造も……新型コロナで揺れる町工場の雇用と働き方



中沢 康彦
日経ビジネス副編集長

2020年4月27日

新型コロナウイルス拡大による「雇用クライシス」は、中小の製造業にも様々な形で影響を及ぼしている。今後の先行きを懸念して「作れるうちに作っておこう」と考えた取引先からの注文が増えた町工場もあれば、展示会の中止で受注が減り急きょマスクの製造に参入したアパレル企業もある。折しも、今年4月からは残業規制が中小企業にも適用されている。働き方の変化も余儀なくされている中で襲ったコロナ・ショックに挑む中小製造業を追った。

第1回：新型コロナの“需要消滅”が招く雇用危機、「倒産する」悲鳴続々

第2回：新型コロナで工場休止 トヨタ、日産の城下町で見た雇用危機

第3回：トヨタの“師”が語る「新型コロナで景気が悪化しても雇用は守る」

第4回：日本電産永守会長が語る雇用と危機 コロナ・ショックにどう対応？

第5回：経済対策は迅速さ、規模に欠ける 追加対策が必要



深中メッキ工業の深田稔社長

新型コロナウイルスの感染拡大は中小製造業の働き方や雇用にも影を落としている。経営者はそれぞれのやり方で前を向こうと懸命だ。

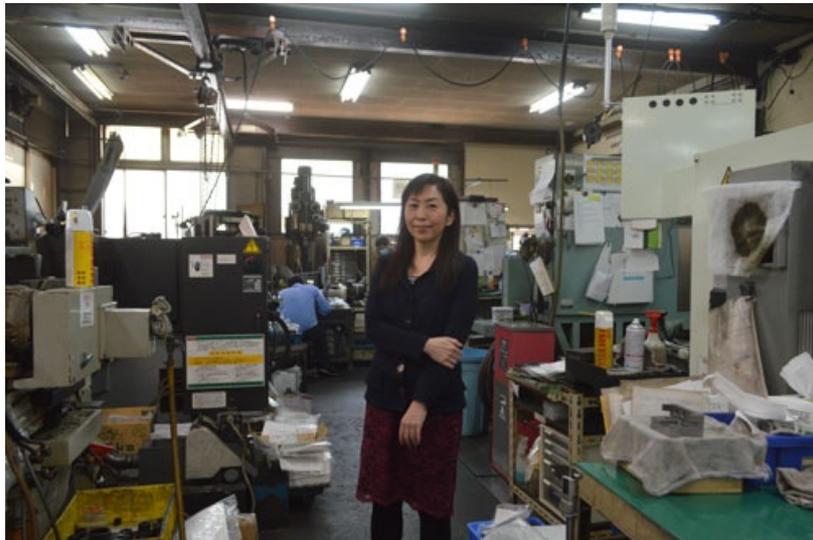
社員10人の深中メッキ工業（東京・墨田）。小規模ながら高い技術を持つ町工場として知られ、安倍晋三首相が訪れたこともある。

新型コロナウイルスの影響により、各地でデイケアサービスが縮小。深中メッキ工業の場合、この影響で一部の社員は家族をサポートする必要が出てきたため、残

業が難しくなった。社内に残業ができる社員は限られるが、働き方改革の残業規制は4月から中小企業にも適用が始まった。

同社はこのところ注文が増加していたが、新型コロナウイルスの影響を危惧して「作れるうちに作っておこう」という取引先もあり、4月も仕事が増えている。深田稔社長は「もともと人数がギリギリ。残業規制をやり繰りしながら、操業していくしかない」と話す。

自動車関連の治具（じぐ）などを手がけるダイヤ精機（東京・大田）は社員27人の町工場だ。諏訪貴子社長は「中小企業は仕事の繁閑の差が月によってあり、仕事の平準化が難しい。新型コロナウイルスでは先が見えない分、なおさらだ。働き方改革にはきちんと対応しているが、残業規制をめぐる悩みは多い」と話す。



ダイヤ精機の諏訪貴子社長

縫製の技術生かしてマスクの製造に参入

同じ製造業でも新型コロナウイルスの影響が早く出た業種は、雇用を守るために事業の在り方自体を見つめ直している。

縫製などを手がける和興（東京・墨田）は創業約90年の老舗企業だ。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で2月に予定していた展示会が一部中止となったことなどから、3月は取引先であるアパレルからの注文が前年比で2割ほど減少。今後も7～8月分まで同5割減が見込まれるなど厳しい。國分博史専務は「グループを含め約40人の雇用を守るために、何とかしなければならない」と危機感を持った。

同社は3年ほど前から新事業として和紙100%の素材を使った服に取り組み始め、近く販売する予定だった。「縫製会社として今できることは何か」を考えた國分氏はこの素材を生かし、新型コロナウイルスの影響で不足が深刻化しているマスクの製造に着手。端材を使い1週間ほどで試作品を作製すると、調湿などの機能面の良さから好評だった。

そこで本格的な製造に乗り出して、インターネット経由で直接販売。発売から2週間ほどで3000枚が売れ、今も増産が続く。國分氏は「海外のアパレルなどからも問い合わせが入っている。厳しくとも、雇用を守っていく」と話す。



和興は和紙100%の素材でマスクを製造

実際に新型コロナウイルスに社員が感染した町工場もある。

首都圏のある中小企業では、営業を担当する社員の家族が新型コロナウイルスに感染。社員は濃厚接触者として一時、出社できなくなった。社長は急ぎよ、この社員の仕事を引き継ぎ、取引先を回り始めた。社長は「少ない人数のため大変だが、社員の健康が第一だ」と話している。

雑誌の特集記事「世界で4割の労働者が直面 雇用クライシス コロナ・エフェクトに備えよ」もご覧ください。

**世界で4割の労働者が直面
雇用クライシス
コロナ・エフェクトに備えよ**

PART1

リストラ、雇い止め、内定取り消し
新型コロナで解雇、倒産……蒸発する仕事 雇用の「氷河期」が迫る

PART2

副業、ワークシェア、チームビルディング……
新型コロナに負けず雇用を守る6つの方策 目線は需要回復期に

PART3

危機は「管理」できない
「社員の幸せ」をどう追求？ “コロナ後”はレジリエンス強化へ

